



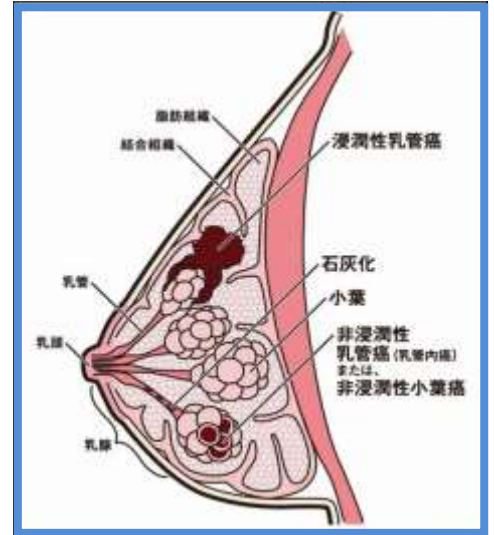
News Letter

第11号：発行日 平成24年9月25日

乳がん検診について

乳がんとは？

乳がんは、乳房にある乳腺（母乳を作るところ）に発生する悪性腫瘍です。症状は、しこり、血性乳頭分泌、乳頭の陥没、皮膚のくぼみ、痛み、わきの下のしこりなどであり、それらが発見のきっかけになります。しかし初期には症状がほとんどありません。



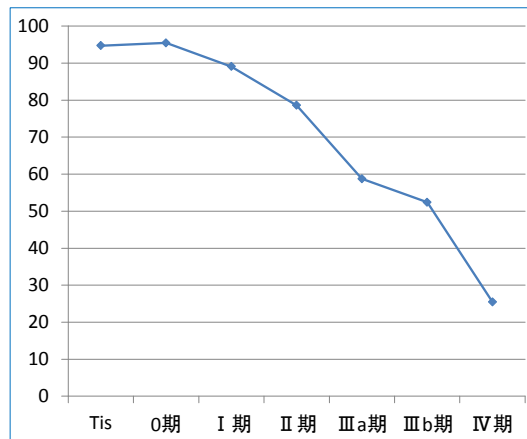
・早期発見の効果

今、日本女性の16人に一人が乳がんにかかるといわれています。残念ながら乳がんの予防法はありませんが、早期に発見して治療すれば約90%の方が治ります。早期発見のためには、自己検診や医療機関での定期検診が大切です。

乳がんの進行度と10年生存率

日本乳癌学会「全国乳がん患者登録調査報告第29号」より

%



Tis: 乳管内にとどまるがん
非浸潤がん(超早期)
0期: しこりや画像診断で異常な影を認めないもの
I期: 2cm以下のしこりで、リンパ節転移がないと思われるもの
II期: 2cmを超え5cm以下のしこりがある、もしくはリンパ節転移が疑われるもの
IIIa期: しこりが5cmを超えるもの
IIIb期: しこりが皮膚などに及んでいるもの
IV期: しこりの大きさを問わず、他臓器に転移が認められるもの

・乳がんのハイリスクグループ

以下の項目に当てはまる方は、早期発見のため乳がん検診を必ず受けましょう。

- 1) 乳がんの既往歴
- 2) 母親・姉妹が乳がん
- 3) 早い初潮（11歳以下）、遅い閉経（55歳以上）
- 4) 未産、高齢初産（30歳以上）
- 5) 肥満（標準体重+20%以上）
- 6) 良性の乳房疾患の既往歴

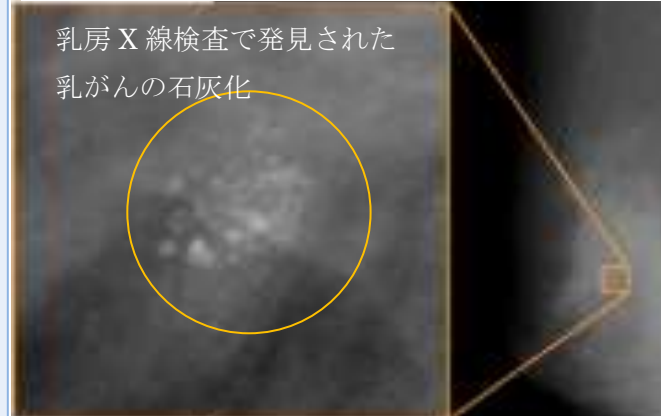
・乳がん検診の検査法

当院で行っている乳がん検診の検査法には、乳房X線検査（マンモグラフィー）、乳房超音波検査（マンモエコー）があります。

・乳房X線検査（マンモグラフィー）

乳房X線検査では専用のX線装置で乳房を圧迫し薄くひきのばしながら撮影し、乳がんの初期所見である石灰化や小さな腫瘍などを写し出します。

乳房触診検査とマンモグラフィー併用すると50歳以上では乳がんの死亡率減少効果があるといわれており、感度は90%で、その70%が早期がんで発見されています。国の乳がん検診指針では、40歳以上で触診と乳房X線検査の組み合わせで行うことになっています。



・乳房超音波検査

乳房超音波検査は、超音波を使って乳がんなどを発見する検査のひとつで、痛みを伴わずに行うことができます。視触診のみでは発見しにくい、小さな腫瘍（しこり）の発見に優れています。その他、表面の組織や乳管内の変化も観察することができます。

超音波検査で発見される乳がんは、がんの種類によっていろいろな形状を呈しますが、しこりを作る乳がんの場合、しこりの周りが凸凹した形である、しこりの内部が不均一な濃淡として描出されるなどの特徴があります。



乳房X線検査、乳房超音波検査には、それぞれ特徴があります。当院では両方の検査を交互に受診することをお勧めします。ただし、以下の項目に当てはまる方は超音波検査をお勧めします。

- ・乳房の張っている方（特に40歳以下）
- ・マンモグラフィーで強い痛みを感じる方
- ・妊娠、妊娠の可能性がある方
- ・豊胸手術をされた方
- ・胸部に医療器具（ペースメーカー等）の埋め込み手術をされた方

検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6800 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803 / E-mail:mail@soiken.or.jp